

「Colors,Future!」 調和による最幸のまちを めざして



川崎市消防局長 日迫 善行

川崎市は、神奈川県北東部に位置し、東西約31km、南北約19kmと細長く、面積は約144km²と政令指定都市の中で最も面積が狭い都市ですが、総人口は154万人を超え、全国的に人口が減少に転じる中で、今なお増加を続けています。

東京湾に面する臨海部には石油コンビナートに加え、世界的企業や最先端の研究開発機関などが多く立地するほか、多摩川や多摩丘陵などの自然環境もあり、多彩な都市となっています。

さて、昨年1月から新型コロナウイルス感染症の拡大が始まり、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の延期、緊急事態宣言の発出、年明けの再度の緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の発出と、感染症を巡る情勢は現在も目まぐるしく変化しています。

本市におきましても、感染症拡大防止に取り組みながら、災害対応や各種業務などを行っているところでありまして、市民の生命と財産を守る消防の役割の重さについて、改めて強く認識しているところです。

新型コロナウイルス感染症の拡大により社会環境が急激に変化している中、本市としては新しい生活様式を踏まえたデジタル化の取り組みを推進しており、消防局におきましてもオンライン会議やテレワークの利用拡大、電子申請の推進やAIの活用などの取り組みを推進してまいりたいと考えています。

また、災害対応につきましても、地球温暖化の進行に伴い激甚化する風水害や土砂災害、甚大な被害が想定される首都直下地震や南海トラフ地震など大規模災害の発生が危惧されており、防災拠点等の整備、消防団の充実強化、臨海部の災害対応能力を強化する消防艇の大・小2艇体制や消防ヘリコプターの安全運行体制の確立、消防指令体制の強化などに取り組んでいます。

さらに、社会変容に対応するため、女性活躍推進など働き方・仕事の進め方改革やCO₂排出実質ゼロを目指す「脱炭素戦略（かわさきカーボンゼロチャレンジ2050）」などを推進してまいります。

来る2024年、本市は市政100周年を迎えます。100周年に向けた川崎市のブランドメッセージである「Colors,Future!いろいろって、未来。」のロゴマークは、赤、緑、青の光の3原色を表し、混じりあうことでどのような色も生み出せるという、このまちの可能性と豊かさを表現しています。私たち消防職員も、職員それぞれが持つ個性や能力を大切に、それらが混ざり合うことで、消防という仕事の可能性を広げ、ますます多様化していく社会に対応していく必要があると感じています。

誰もが安全に、安心して暮らせる、「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまちづくり」を推進してまいります。

